

印刷教材のあり方に関する調査・研究報告書

ラジオ講座主任講師 本間正明
 (大阪大学 経済学部 教授)
 テレビ講座主任講師 森本俊文
 (大阪大学 歯学部 教授)
 大阪大学開放講座運営委員会
 専門委員 水越敏行
 (大阪大学 人間科学部 教授)

I. 調査研究の目的と方法

1. 研究の目的

本学の放送講座のテキストは、大学の専門的な研究内容を平易に解説し、しかも放送メディアとは独立した、それでいて相補性を強く持ったテキストを作成しており、その質、量とも年々向上している。

しかし、高度な研究内容を平易に解説しただけの専門書が、必ずしも放送高等教育のテキストとして最適であるとは言い難い。「ラジオという聴覚だけに頼るメディアと組み合わせるには、印刷メディアそれ自体にどのような工夫が必要か」テキストの内容、資料や記述の仕方をいろいろ違いながら、この問題を解明することとした。

(今年度は、ラジオ講座「世界の中の日本経済」の受講生のみを対象として調査、研究のアンケート等を実施し、テレビ講座「新しい時代の口の科学」については『印刷教材のあり方』と題して、調査研究指導教官と主任講師とが対談を行った記録を掲載する。)

2. 調査の方法

(1) アンケート調査

下記の具体的テーマに関する調査項目を作成し、受講生全員を対象としたアンケート調査を実施した。

- ① メディアミックスの視点からの印刷教材の研究開発
- ② 放送メディアの特性に応じた印刷教材の研究開発
- ③ 印刷教材の備えるべき内容的要件の研究
- ④ 講座における印刷教材の位置づけの研究
- * アンケート回収状況 (ラジオ講座)

受講生数	回収状況
444名	213名 (48.0%)

(2) 聴き取り調査

スクーリング終了後、受講生に対し所定の用紙に意見等を記述させる方法を用いた。

II. ラジオ講座主任講師としての所感

1. 総論的説明

(1) 本講座は、わが国が経済大国に至る軌跡をたどった上で、日本経済にいま何が起きているのか、日本が経済面でどのような方向に進もうとしているのか、そのなかでいかなる改革が求められているのかといった諸問題を、講義担当教官の専門を生かしつつ、体系的に論じようとしたものである。講義に際しては経済学部より11名、社会経済研究所より2名の協力が得られ、各講義のテーマは経済学をはじめ経営学、経済史、情報科学等広い分野に及んだ。

日本経済の強靱性が世界の注目を集めていることを反映して、この講義が取扱った諸問題に関心を持つ人々は増加しており、そのため巷には日本経済に関する情報が氾濫している。けれども、理論と実証に裏打ちされた、信頼するに足る文献等は意外に少ない。一流のスタッフを誇る、本学の経済学部および社会経済研究所がラジオおよびテキストを通じて受講者に知識を提供したこの講座は、まことに時宜にかなったものであったと自負している。

(2) 放送を利用した大学の公開講座においては放送番組自体のほかスクーリングとテキストが非常に重要であり、これらのいずれを欠いても十分な教育効果は生じないものと思われる。

今回の放送講座テキストを一読者として読んでみたところ、かなり高度な内容が平易にまとめられており、予備知識があまりない人でも、本書から日本経済に関する基本的な知識を一通り身に着けることが可能と思われた。

ただし後日、受講生より①(映像を伴わないラジオ講座という事情が大きく影響しているが)図表や写真をもう少し多く掲載してほしい(スクーリング出席者75名中16名)、②テキストの内容をもっと簡潔にし、専門用語の補足説明を増やすほうがよかった(4名)、③参考文献の内容の水準に関する説明をつけてほしい(3名)、④各章の要点のまとめがある方がよく、また章相互の関連性もつけてほしい(3名)、等傾聴に値する意見が多数出され、読者からみて良いテキストを作ることの難しさを痛感した。

(3) 今回のテキストの作成に際しては、経済学部スタッフで講師以外の者2名が企画委員となり、「世界の中の日本経済」という全体のタイトル、各回の放送のテーマ、そして講師陣の原案をあらかじめ適切に設定してくれた。また本学の事務局は長年の経験に基づき、放送講座テキストの原稿を執筆するための詳しいマニュアルをすでに作成している。この2つの措置のおかげで我々は、執筆前の打合わせにあまり時間をさくことなく、また大変効率良くテキストをまとめることができた。講義内容の原案やテキストの執筆要項をあらかじめ準備しておくことは、きわめて有益と思われる。

(4) 放送講座テキストは、比較的少数の受講生によってのみ利用されて終わりがちなものであろう。しかし内容のあるテキストならば受講生以外の人々にも有益と思われる。そしてそれがより多くの人々の目にふれることは、苦勞して原稿を執筆した我々にとって文字通り望外の喜びである。経済学部は以前にもラジオ講座を担当したことがあるが、その際、放送講座テキストを加筆修正した上で大阪大学教授グループ著『学生・ビジネスマンのための入門・日本経済

の読み方』(1984年)としてPHP研究所から出版した。今回のテキストについても、それをたんなる教材に終わらせるのを惜しむ声が講義担当教官のなかからあがり、各執筆者がスクーリングの折りの質疑を踏まえ旧稿を訂正した上で、一般読者を対象とした書物として有斐閣から近く出版される運びになった。テキストの執筆は担当者にとり率直にいて、貴重な研究時間を割いて行う労多い仕事であるが、出来上がったテキストがごく少数の人々の目にしかとまらなければ、功少なく終わってしまうため、えてして食指が動かない労働となるように思われる。しかしテキストの公刊を念頭に置けばそうした負担感も、かなりの程度軽減されるのではあるまいか。

2. 各論的説明

(1) テキスト作成の具体的な作業を進める過程では、本学事務局のマニュアルを参照して、以下の項目にとくに留意した。

- ① 各回のはじめに、講義の狙いを簡単にまとめておく。
- ② ラジオ放送では表現できない図表を多く取入れ、理解を容易にする。それらには、受講生の理解を助ける若干の解説や、読取り方のヒントを添える。
- ③ 「です・ます」調で統一し、「である」調が混じらないようにする。
- ④ 各回の終わりにキーワードをいくつかリストアップしてもらい、それらに若干の解説を加える。
- ⑤ 学習意欲のある読者のために各回の末尾に参考文献を数点あげてもらい、それらに若干の解説を加える。
- ⑥ 息抜きの「休憩室」欄をできるだけ多く設ける。

(2) 以下においては、本講座「世界の中の日本経済」のテキストを各回に分けて、それぞれについてその形式の上で比較的な特徴、受講生の反応などを含めた若干のコメントを行う。なお、取上げられた各テーマについては本調査研究の直接的対象ではないと考えられるので、内容とは切離して、主に形式面について述べることにする。

第1回 世界経済への日本の参入

- * 専門的で詳細な図表を多用し、放送内容の高度な理解を助けている。
- * 放送内容を忠実に再現するものとなっている論説である。
- * 基本的な参考文献につき丁寧に解説されている。

第2回 日本の発展と世界経済

- * わかりやすいグラフが活用されている。
- * 放送内容の全体を明快にまとめている。
- * 参考文献としては基礎的なもの3点が挙げられている。

第3回 日本の企業

- * 放送のための予備的資料として用意されたものである。
- * 参考文献の欄は省かれている。
- * 図表は計1枚である。

〔この講義は受講生から好評を得た〕

第4回 金融革命

- * 既刊の論文に基づく力作であるため、分量がやや多い。
- * 丁寧な脚注が付けられている。
- * 参考文献は脚注に含まれている。

第5回 情報通信革命

- * 図表はない。
- * 語句説明は丁寧である。
- * 専門的な参考文献が挙げられている。

第6回 ストック経済

- * 2枚の表が活用されている。
- * 最新の参考文献3点につき丁寧な解説がある。
- * 「休憩室」欄が設けられており、テーマに関する読者の理解を助けている。

第7回 高齢化社会と私達の暮し

- * 講義の内容をわかりやすくまとめている。
- * 図表は計1枚である。
- * 語句説明と参考文献の欄は省かれている。

第8回 これからの雇用と賃金とくらし

- * 賃金の体系に関する図をはじめ、図表が内容の理解を容易にしている。
- * 基本的な参考文献に関する丁寧な紹介があり、その内1冊の骨子は「休憩室」で紹介されている。
- * 語句説明は省かれている。

第9回 アジアと日本

- * 放送内容を再現するようにまとめている。
- * 図表は計2枚である。
- * 語句説明と参考文献の欄の記述は丁寧で親切である。

第10回 オーストラリアと日本

- * 2枚の表が活用されている。
- * 丁寧な語句説明と基本的な統計資料のリストがある。
- * 読者の興味をそそる「休憩室」がある。

第11回 規制緩和

- * 放送ではカバーしきれない内容まで丁寧に記してある。
- * 図表とも語句説明はない。
- * かなり専門的な参考文献が挙げられている。

第12回 貿易摩擦と貿易不均衡

- * 多数の図表が活用され、読者の内容理解を助けている。
- * 丁寧な脚注が付けられている。
- * 語句説明はない。

* 自著も含む、かなり専門的な参考文献が挙げられている。

第13回 ボーダーレス・エコノミー

* このテキスト全体の総括的な位置にある章である。

* 図表と語句説明はない。

* さらに進んで勉強したい読者のために自著2点が挙げられている。

Ⅲ. テレビ講座主任講師としての所感

今年度テレビ講座の印刷教材は、市販本を各書店等で受講登録者に購入させる方法となり、一般市販本と何等変わらない扱いとなったため、調査研究については、調査研究指導教官の水越教授とテレビ講座主任講師の森本教授との対談により、「放送と印刷教材のあり方」に関して問題点等を摘出していただくこととした。

〔対談内容〕

1. 印刷物がないと、一過性の映像だけでは理解が充分に得られないということが明らかなのですが、テレビとテキスト内容の一致の程度についてはどう考えますか？

「映像として送れるものの範囲とテキストの長さの問題があり、放送のほうが詳しいものもありますし、逆にいいますと、テレビでは絵になるものを見せるということを誰もが主体に考えるので、話の筋とテキストではふれていないようなものを出したということもあるが、ほぼ放送内容とテキストの内容は一致していたと思います。

ただ、テレビに出演して講義をした人と、実際に文章を書いた人が同じでないところもあるので、そのあたりで内容と不一致ということもなくはないが、見当違いのことをしゃべったというところは無かったと思います。

テキストは映像に出したものの以外に内容を補足したり、深めたりすることを主体において掲載されています。

また、反対にテキストでは短い文章で終わってしまうものが、放送講座では、実験ではこうなんですよというような補足説明が加わることがありますね。ある結果を出すのに実際に映像に出して、しかも動いているものを見せるということで、より理解が深まるということもあるのではないか。」

2. テレビ放送での映像情報の出し方について、工夫されたことはありますか？

「グラフ、表等は、放送では読み取れない場合があるが、放送ではできるだけ多くの図や写真を利用しました。せっかくのテレビ講座ですから、聴覚よりも視覚に重点をおいたほうが理解しやすいと思ったからです。

ですから、放送ではテキストに掲載していないものもかなり出ています。」

3. テキストの内容の一部分を強調して放送しようとする番組制作者の考えもあったと思われ

るが、一部分の拡大は困るという先生方の考えはありませんでしたか？

「実際には若干あったと思われるが、このテキストは映像を勘案した執筆をしていたので、番組制作者とのトラブルは無かったと思う。」

4. 一般市民、不特定多数のターゲットを対象者とした講座で、どれくらいのレベルを中心にするかというようなことについての考えは？

「大学の教養課程から専門課程に進級する時に、学生に各講座を紹介するのと同程度と考えて作っています。

ただ、講師によって教養の学生がどの程度の知識を持っているかという考え方がかなり違うので、やさしく書いてあるところから、かなり専門的なことを書いているところもある。

放送時間がかなり長いので、中には専門的な最先端の問題も入っており、今までの歯科領域を繰り返し話すよりも、サイエンスとしての展開が現在どのようになっているかを、各講師にかなり意識して作って戴いた。

ただ、後で聞いたことですが、講義の流れは分かったが、内容としては素人には難しかったとの批評があったようです。」

5. 45分の放送時間は？

「45分は長いような気がします。」

6. 最後に今回の放送を教養部学生に見せて、講座紹介、講義等に利用させることについては？

「具体的にはそのような企画にまでは至っていないが、学生がどのような反応を示すかについては興味を持っている。

歯学部学生には今回のテレビ講座の放送を見なさいと話しておりますし、また歯学部志望の学生にとっては、各講座が分担しての放送出演なので、学生の専攻決定、所属講座選択には利用できるのではないかと考えています。」

Ⅳ. アンケート調査集計／分析

番組とテキストとの関連を中心に

1. 全体的傾向

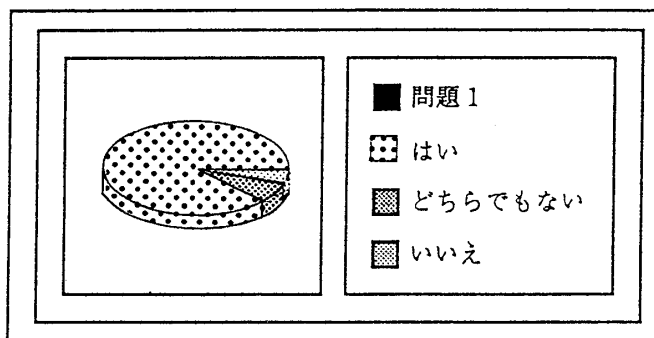
回答者総数は213人、男性が女性の約4倍で、中高年層に回答者が偏る（40歳以上が75%）。しかし、回答結果は是々非々がはっきり示されており、自分の意見を確かに持った人の多いことが読み取れる。以下、顕著なものだけグラフを添える。

（1）はっきりと肯定意見が出たもの

- Q1 このテキストの分量は適当である。（89%）
Q2 このテキストの内容は、全体としてわかりやすい。（74%）

Q10 文章中での専門用語の解説を取り入れてほしい。（87%）
Q11 休憩室を設けたことは、良いアイデアである。（71%）
Q18 番組の最後に講師から大事なことを復唱したりまとめてほしい。（77%）

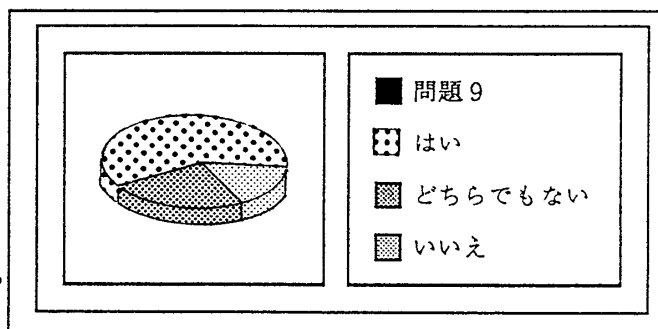
以上が、6つの質問項目が70%以上の肯定意見がでている。



（2）過半数の肯定意見が得られたが、どちらともいえないや否定意見がある程度あって、上ほど明快な肯定意見になっていないもの

- Q5 写真や図表をもっと多く、入れてほしい。（58%）
Q6 最初に掲げている要旨は箇条書きの方がよい。（50%）
Q7 1回ごとに大切な言葉を列挙しておいてほしい。（65%）

Q9 本文に引用した参考文献だけでなく、文献なども教えてほしい。（59%）
Q14 ラジオ番組の内容と関連のあるところには、マークを付けてほしい。（55%）
Q16 女性アナウンサーが聴き手を代表し、質問する方法を導入してほしい。（61%）
Q20 難しい漢字には仮名をふったり、言葉には注を付けて解説してほしい。（60%）



(3) 意見が完全に3つに分れていたり、否定的な意見が多いもの

Q3 テキストは主教材であって、ラジオは副次的・補助的なものと思った。

(はい42%/どちらともいえない37%/いいえ22%)

Q4 テキストに書き込みができるような余白を作ってほしい。(はい40%/どちらともいえない30%/いいえ30%)

Q8 学習の手引きをもう1冊別に作ってほしい。(はい32%/どちらともいえない35%/いいえ34%)

Q12 1回終了ごとに練習問題を入れておいてほしい。(はい32%/どちらともいえない43%/いいえ25%)

Q13 本文中の見出しは細かくついているほうがよい。(はい40%/どちらともいえない43%/いいえ17%)

Q15 女性アナウンサーとの対話形式はあまり効果的ではない。

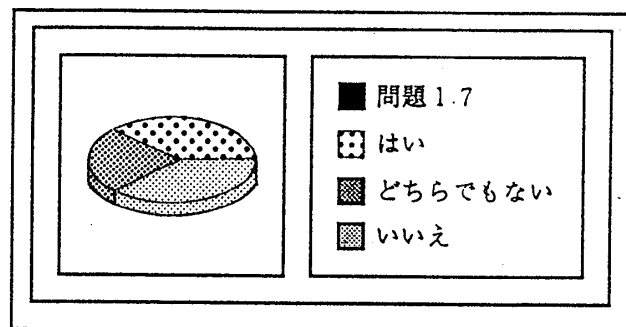
(はい29%/どちらともいえない43%/いいえ28%)

Q17 ニュース、演説などを入れて変化に富んだものにしてほしい。

(はい36%/どちらともいえない26%/いいえ28%)

Q19 ラジオ番組とテキストの内容は適当にずれていたほうがよい。

(はい37%/どちらともいえない42%/いいえ20%)



(4) 考察

前回に続き、今回もラジオ番組の内容とテキストの分量や構成は、大筋において肯定的に受けとめられている。1回ごとの読みきり講義として受けとめ、大事な理解事項はきちんと整理して指示してほしいと考えている。視聴覚メディアであるラジオの即時性という特性を生かしたものを望み(Q17)、その結果テキストとのずれは構わない(Q19)という人と、ラジオはあくまでテキストの解説であるという人に大きく分れている。一方、テキストの視覚的要素を補強するため、写真や図表を入れたり(Q5)、文献を付けたり(Q9)、注を入れたり(Q20)することは、ある程度の肯定意見がでている。しかし、テキストが完全に独立した教材として、練習問題を入れたり(Q12)、ガイドブックを添えたりする(Q8)ことには意見が分れ、否定意見も多い。

Q1、Q2、Q10、Q11、Q18は、昨年アンケート調査でも肯定意見がはっきりでている。また、Q3、Q4、Q8、Q12、Q13、Q15、Q17、Q19は、今年も意見が完全に3つにわかれていたり、否定意見が多くなったりしている。

2. 性別との関係

男性が圧倒的に多いので、傾向性を読み取る程度しかできないのであるが、両性の間の割合に差が見られたものを挙げてみる。

(1) 男女とも肯定意見が多かったもの（両性とも70%以上の肯定意見を得られたもの）

Q1 このテキストの分量は適当である。

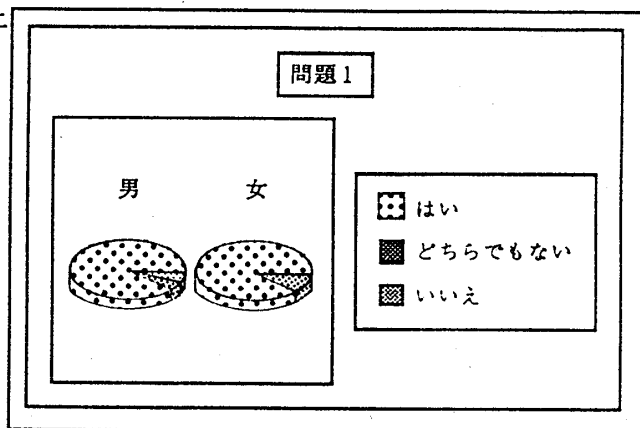
（はい男性89%／女性90%）

Q10 文章中での専門用語の解説を取り入れてほしい。

（はい男性87%／女性88%）

Q11 休憩室を設けたことは、良いアイデアである。

（はい男性70%／女性75%）



(2) 男性の方が肯定意見の割合が多く、かつ、女性の方が否定意見の割合が多かったもの

Q2 このテキストの内容は、全体としてわかりやすい。

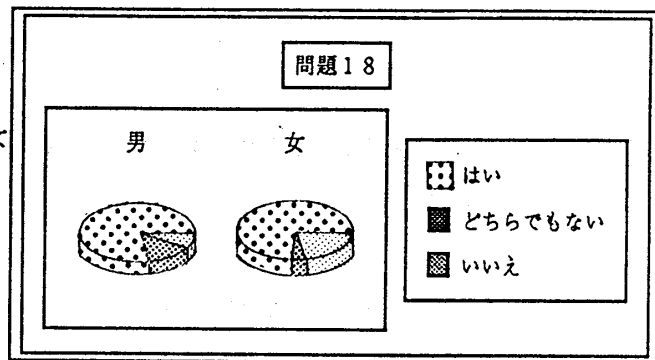
（はい男性78%／女性57% いいえ男性2%／女性12%）

Q3 テキストは主教材であって、ラジオは副次的・補助的なものと思った。（はい男性43%／女性38% いいえ男性19%／女性35%）

Q5 写真や図表をもっと多く、入れてほしい。（はい男性61%／女性48% いいえ男性8%／女性19%）

Q18 番組の最後に講師から大事なことを復唱したりまとめてほしい。

（はい男性78%／女性74% いいえ男性7%／女性21%）



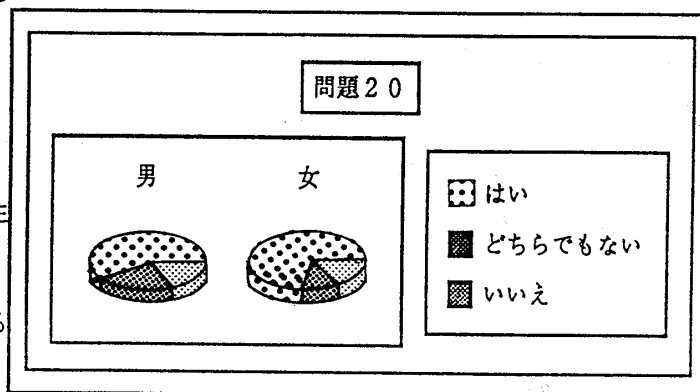
(3) 女性の方が肯定意見の割合が多く、男性の方が否定意見の割合が多かったもの

Q11 休憩室を設けたことは、良いアイデアである。

（はい男性70%／女性75% いいえ男性8%／女性3%）

Q20 難しい漢字には仮名をふったり、言葉には注を付けて解説してほしい。

（はい男性57%／女性73% いいえ男性15%／女性13%）



(4) 考察

以上の性別との関係では、一貫性のある傾向は必ずしも出ていない。あえて言えば、男性の方がテキストを重要視し（Q3）、ラジオの講義をより理解しようとしている（Q18）。女性は、テキストを「楽しく」利用しよう（Q11）と思っているようである。

Q2、Q5は、昨年にひきつづき男性の方が肯定意見が多く、Q11は、女性の方が肯定意見が多かった。

3.年齢との関係

先にも述べたように、回答者の年齢構成が上の方に偏っている。そのため、本来なら、均等に3群に分けてクロス表を作成するのであるが、年齢との関係を見るためには、不適当と判断した。よって、青年層（29歳以下）、中年層（30歳から59歳）、高年層（60歳以上）に分け、クロス表を作成した。

（1）はっきりと（ないしは過半数の）肯定意見が出ており、3つの年齢層の差が見られないもの（各年齢層とも50%以上の肯定意見があるもの）

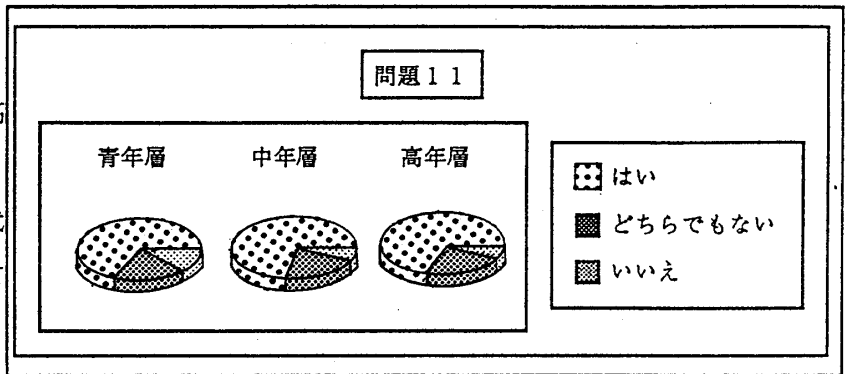
Q7 1回ごとに大切な言葉を列挙しておいてほしい。（青年層60%／中年層63%／高年層69%）

Q11 休憩室を設けたことは、良いアイデアである。

（青年層68%／中年層72%／高年層70%）

Q16 女性アナウンサーが聴き手を代表し、質問する方法を導入してほしい。

（青年層60%／中年層61%／高年層63%）



（2）はっきりと（ないしは過半数の）肯定意見が出ているが、特定の年齢層には肯定意見が少ないもの（特定の年齢層だけ肯定意見の割合が他の層より10%以上差があるもの）

Q1 このテキストの分量は適当である。（青年層73%／中年層92%／高年層90%）

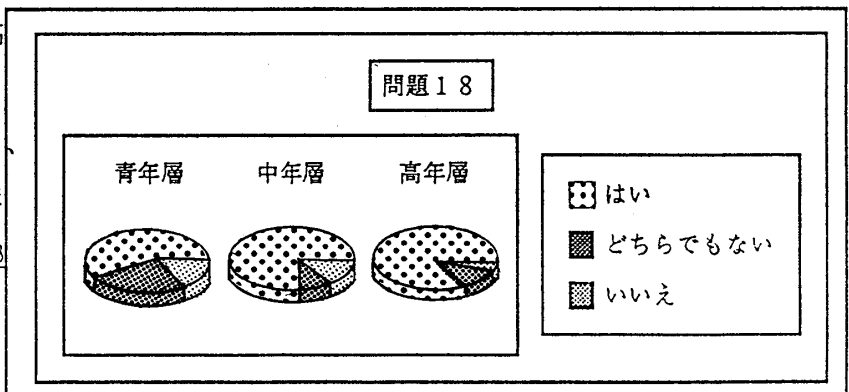
Q14 ラジオ番組の内容と関連のあるところには、マークを付けてほしい。

（青年層40%／中年層55%／高年層62%）

Q18 番組の最後に講師から大事なことを復唱したりまとめてほしい。

（青年層58%／中年層76%／高年層85%）

Q20 難しい漢字には仮名をふったり、言葉には注を付けて解説してほしい。（青年層64%／中年層53%／高年層68%）



(3) はっきりと（ないしは過半数の）肯定意見が出ており、かつ、特定の年齢層に肯定が多く出ているもの（特定の年齢層だけ肯定意見の割合が他の層より10%以上差があるもの）

Q2 このテキストの内容は、全体としてわかりやすい。

（青年層50%／中年層69%／高年層88%）

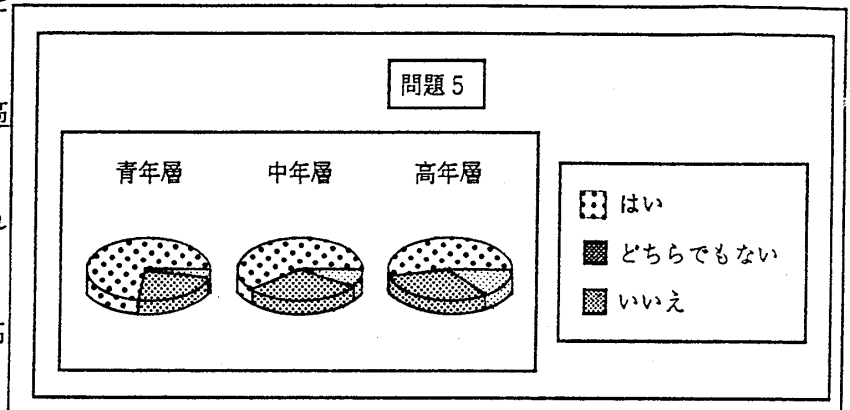
Q5 写真や図表をもっと多く、入れてほしい。

（青年層73%／中年層60%／高年層51%）

Q6 最初に掲げている要旨は箇条書きの方がよい。

（青年層28%／中年層48%／高年層59%）

Q9 本文に引用した参考文献だけでなく、文献なども教えてほしい。（青年層50%／中年層67%／高年層52%）



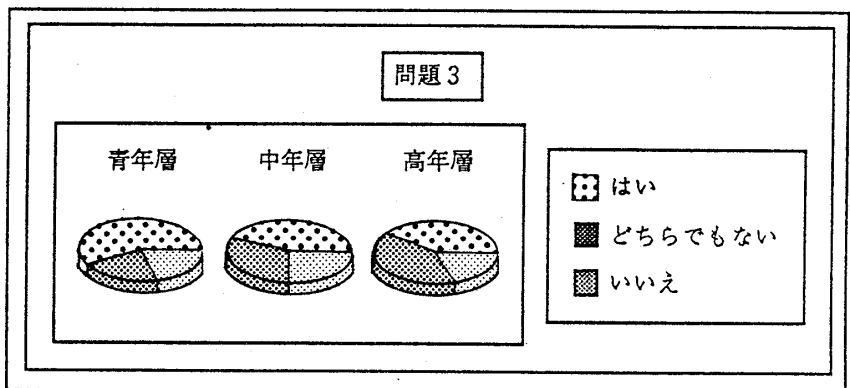
(4) 肯定意見が過半数に達せず意見は分散している。しかし、特定の年齢層に偏りが見られるもの（特定の年齢層だけ肯定意見が70%以上あるもの）

Q3 テキストは主教材であって、ラジオは副次的・補助的なものと思った。

（青年層56%／中年層41%／高年層39%）

Q19 ラジオ番組とテキストの内容は適当にずれていたほうがよい。

（青年層52%／中年層35%／高年層38%）



(5) 考察

青年層、中年層、高年層、それぞれ意見が分れることが多いようである。青年層は、番組とテキストのそれぞれの持ち味を生かしたものを求め（Q3、Q18、Q19）、高年層は番組の内容とマッチしたもので、理解の補助道具としてのテキストを求めている（Q2、Q6）ようである。

Q3、Q5は、今年も青年層に肯定意見が多く、Q2は、高年層に多いという結果になった。

4.まとめ

いままでの総括的なまとめとして、テキスト、ラジオ番組、テキストとラジオ番組との関係の3つに分けてまとめた。

テキストについて

青年層を除いて、分量は適当であると思っている。内容もわかりやすいという意見が多いが、女性や高年齢層では否定的な見方もある。主教材かどうかについては、意見が分かれており、男性や青年層が主教材だと持っている。また、男性の青年層が、もっと写真や図表を入れてほしいと考えている。最初の要旨が箇条書の方がよいと高年齢層は思っているが、青年層は思っていない。1回ごとにキーワードを列挙してほしいと半分以上の人は思っている。学習の手引があるかどうか、そして、1回ごとに練習問題を入れるかどうか、見出しを細かくつけるかどうかについては、性別、年齢に関係なく意見はばらばらである。中年層は関連文献も教えてほしいと思っている。文章中の専門用語の解説は、男女問わず必要だと思っている。難しい言葉の解説は必要だと多くの人が思っており、特に女性や中年層に多く見られる。休憩室を設けたことは、男女、年齢の区別なく肯定的に受け入れられている。

ラジオ番組について

女性アナウンサーとの対話形式については、そして、変化に富んだものにしてほしいかどうかについては性別、年齢関係なく意見が分かれている。また、女性アナウンサーが聴き手を代表して質問する形式をとってほしいと年齢の差はなく、半分以上の人が考えている。最後に講師にポイントをまとめてほしいと思っている人は多いが、女性や青年層に否定的に考えている人がいる。自由記述で、京都放送は聴取しにくいという声はかなりあった。

テキストとラジオとの関係

ラジオ番組と関連のあるところにはマークをつけてほしいと半分以上の人は考えているが、青年層は否定的である。ラジオ番組とテキストの内容はずれている方がよいかについては、意見が分かれているが、青年層に肯定的にとらえている人が多い。

- ▶ 問題 1 について
 - ▶ 本だけしか送ってきていない。
 - ▶ もうすこし詳しい方がよい。
 - ▶ 現実の経済現象を更に深く説明するため、ページを増やすことを希望する。
 - ▶ はじめて教えられたこともある。
- ▶ 問題 2 について
 - ▶ わかりやすいけど、内容の方があまりにも単純化されていない？
 - ▶ 内容がもうすこし、専門的であつたら良かった。
 - ▶ わかりやすかった。現実の経済を見る「目」を学びたい。
 - ▶ ポイントを明確にしてほしい。
 - ▶ 経済の専門家でない人でもわかりやすく書かれている。
 - ▶ もうすこし、平易な言葉で解説してほしい。
- ▶ 問題 3 について
 - ▶ TVは再放送とか、VTRとかで再視聴のチャンスがあるけど、ラジオも再放送を是非いれて欲しい。
 - ▶ テキストの内容を踏まえながら、そのより最近の現状、動向を放送でフォローする形がよい。
 - ▶ テキストとおなじことを喋るだけじゃ聴く意味がない。
 - ▶ ラジオの説明でテキストの理解が更に進む。
 - ▶ 専門語が理解しにくかった。
- ▶ 問題 4 について
 - ▶ 端を空けて、手引欄を作る。
 - ▶ 余白を作るより、内容を掘り下げてほしい。
 - ▶ ラジオを聴きながら、書き込む時間はそんなにありません。
 - ▶ 別のノートに書くので不用である。
- ▶ 問題 5 について
 - ▶ カラーも使用した方がよい。
 - ▶ スペースがあればいれてほしい。
- ▶ 問題 6 について
 - ▶ 理解しやすいように。
 - ▶ 現在のテキストにも箇条書の項もあり、そのように統一した方がよい。

- ▶ 要旨の展開はありがたい。詳細であってほしい。
- ▶ 問題 7 について
 - ▶ キーワードを太字にしてもいい。
 - ▶ 記憶しておくべきキーワードを知りたい。
 - ▶ そこまでやっていただければ、受講の意味がない。
- ▶ 問題 8 について
 - ▶ 自習する方法などを教えて欲しい。
 - ▶ そこまでやってくだされば、「恩」の字。
 - ▶ 小学生じゃあるまいし、その必要はない。
- ▶ 問題 9 について
 - ▶ 幅広い文献を知りたい。
 - ▶ 学習文献欄を設けよう。
 - ▶ 現在程度の紹介で十分。
 - ▶ 継続して研究したい。今は、岩波新書を参考にしている。
- ▶ 問題 10 について
 - ▶ 他の回で「語句説明」でまとめて解説する方法でも良い。
 - ▶ 学習参考書を勉強してコラム欄にしたらい。
 - ▶ たいへん良く理解できた。
 - ▶ テキストが分厚くなり、読む意欲を失いがち。ラジオで補助するとよい。
- ▶ 問題 11 について
 - ▶ 休憩になっていない。
 - ▶ 今のやり方では意味がない。
 - ▶ 放送時間が短いので、本論を深める方に活用。
 - ▶ 座談的な雰囲気があって、楽しく頭に入ります。
 - ▶ 女性の声があり、リラックスできる。
- ▶ 問題 12 について
 - ▶ 設問の解答を郵送し、添削指導がうけられる方法を考えて欲しい。
 - ▶ 考えるに値するものを付けて、じっくり考えるものが欲しい。
 - ▶ お勉強、お勉強するのはいや。

- ▶ 理解を更に深める方が先決。練習に進む段階までいかない。
- ▶ サービス過剰になる。
- ▶ 問題 1 3 について
 - ▶ 大見出し、小見出しをつくる。
 - ▶ 区別や差を付けるために必要。
 - ▶ 講師の判断、個性を尊重したい。
- ▶ 問題 1 4 について
 - ▶ テキストの項目名、又はページ数の指示による方法でも良い。
 - ▶ そんな点までテキスト作成段階で準備するのは無理だし、つまらない。
 - ▶ 放送の際、テキストのどこを説明しているのかを言ってほしい。
 - ▶ ポイントになる。
- ▶ 問題 1 5 について
 - ▶ 現在の対話形式の方がわかりやすい。
 - ▶ 対話形式より、講義的に先生がたに話していただいた方がよい。
 - ▶ 女性のアナウンサーの方がよく理解されていると思う。
 - ▶ 相槌を打つ程度ではない。
 - ▶ ポイントがわかってよい。
 - ▶ 全体をまとめるのに有効。
 - ▶ 色気があってよい。
 - ▶ 女性アナウンサーははっきり言って邪魔である。
- ▶ 問題 1 6 について
 - ▶ 時々。
 - ▶ あまり効果的とは思えないので、止めて欲しい。
 - ▶ ポイントのわかる質問形式がよい。
 - ▶ 一問一答式の色彩が濃くなれば、短時間放送であり、体系的な深みが減る。
 - ▶ 自分の聴きたいことと必ずしも内容が一致するとは限らない。
- ▶ 問題 1 7 について
 - ▶ 激動の世の中であり、大事件の際はテキストと違ったり、時の経過とともに条件が移動したりするそのようなときはトピックスが欲しい。
 - ▶ あまりごちゃごちゃしたのは良くない。

- ▶ テキストの内容自体をもっとactualなものにしてほしい。
- ▶ case by case.
- ▶ 娯楽性より、経済を見る「目」が養える体系的、かつ深みのある内容を。
- ▶ わずかな時間帯であるので、講師の意志と本末顛倒の危惧あり。
- ▶ 「前後」には音楽番組が欲しい。
- ▶ 問題 18 について
 - ▶ その回のポイントを掴むためにも、していただくと助かる。
 - ▶ 一番大事なところだけ記憶しとておくべきことを知りたい。
 - ▶ 予備校じゃないし、試験勉強じゃないんですから。
 - ▶ わずか、45分間の講義ではそこまで望むのは無理ではないか。
 - ▶ 5分程度でポイントのみを。
- ▶ 問題 19 について
 - ▶ 一致し過ぎていると、ラジオを聴く楽しみが薄れる。
 - ▶ 事例を多く取り入れ、よりわかりやすく説明して欲しい。
 - ▶ 聴きのがしたときのために一致している方がよい。
 - ▶ テキストの内容から派生した事項もある方がおもしろい。
 - ▶ 少しはアドリブが欲しい。
 - ▶ そうじゃないと聴く気にならない。
 - ▶ 中には、テキストをそのまま読まれる講師の場合は、聴き手のものが退屈します。
 - ▶ テキストを更に深く突っ込んだ話で、テキストのどこを説明しているのかを明確に。
 - ▶ おなじ内容でも、耳から聴くと説得力がある。
- ▶ 問題 20 について
 - ▶ 特に、「カタカナ語」「専門用語」について、是非お願いします。
 - ▶ いろいろな人が聴いているのでそれにあわせて。
 - ▶ 1990年は国際識字年だったし。大村英昭「死ねない時代」有斐閣のようにするとよい。
 - ▶ かなをふる程度にとどめてほしい。(分量)の関係
 - ▶ わかりきった言葉への解説は煩雑になるばかりである。
 - ▶ 手数をかけるがやってほしい。
 - ▶ 外来語は英文で。調べるとき、わかりにくい。

- ▶ 漢字は読めるが、専門用語の注釈がほしい。
- ▶ その他
 - ▶ 京都放送は聴取しにくい。
 - ▶ 放送時間をもう少し、利用しやすい時間に。
 - ▶ テキストをいただいていない。（紛失したのかな？）
 - ▶ テキストをA4版に。活字を大きくしてほしい。

平成2年度大阪大学ラジオ講座受講生に対するアンケート調査
〔印刷教材（テキスト）のあり方に関して〕

このアンケート調査は、本学のラジオ講座を受講登録された方全員を対象として実施するもので、放送による高等教育の印刷教材（テキスト）のあり方に関して資料を得ることを目的としています。

なお、この調査は無記名とし、結果は統計的にまとめますので、個人に対してご迷惑をおかけするようなことは一切ありません。ご多忙の折り、誠に恐縮ですがアンケート調査にご協力のほどお願いいたします。

大 阪 大 学

— 記 入 上 の 注 意 —

- ① 性別、年齢等について、下記により該当する番号を別紙アンケート調査票に記入してください。

○性別〔1. 男 2. 女〕

○年齢〔1. 20歳未満 2. 20歳～29歳 3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳 5. 50歳～59歳 6. 60歳～69歳
7. 70歳以上〕

○学歴〔1. 小学校・新制中学・旧制高小卒 7. 短大・高専在学中
2. 新制高校・旧制中学・旧制高女卒 8. 大学在学中
3. 短大・新制高専卒 9. 大学院在学中
4. 大学・旧制高校・旧制専門学校卒 10. 専修学校・各種学校在学中
5. 大学院卒 11. 高校在学中
6. 専修学校・各種学校卒 12. その他〕

○職業〔1. 農林漁業 6. 中小企業経営者・商店主
2. 事務・技術系の職業 7. 主婦・家事手伝い
3. 労務系の職業 8. 学生
4. 大企業・官公庁の幹部職員及び自由業 9. 無職
5. 教育職・研究職 10. その他〕

- ② 別紙アンケート調査票の20項目について、1. そう思う（はい）、2. どちらともいえない、3. そうは思わない（いいえ）のいずれか一つを選び、○印をつけてください。

なお、特にご意見のある方は（ ）の中に自由に記入してください。

大阪大学ラジオ講座アンケート調査票
一放送番組とテキストとの関連を中心に一

性 別	年 齢	学 歴	職 業

- | | (はい) | (どちらとも
いいえ) | (いいえ) |
|---|------|----------------|-------|
| 1. このテキストの分量は適当である。
() | 1 | 2 | 3 |
| 2. このテキストの内容は、全体としてわかりやすい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 3. テキストが主教材であって、ラジオは副次的・補助的なものと思った。
() | 1 | 2 | 3 |
| 4. テキストに書込みができるような余白をもっと作ってほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 5. 写真や図表をもっと多く、入れてほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 6. 最初に掲げてある要旨は箇条書きの方がよい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 7. 1 回ごとに大切なことば（キーワード）を列挙しておいてほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 8. 学習の手引き（スタディ・ガイド）をもう 1 冊別に作ってほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 9. 本文に引用した参考文献だけでなくより詳しく知りたい人のために、文献なども教えてほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 10. 第 4 回にあるような、文章中での専門用語の解説を他の回でも取り入れてほしい。
() | 1 | 2 | 3 |
| 11. 休憩室を設けたことは、よいアイデアである。
() | 1 | 2 | 3 |

	(はい)	(どちらでもない)	(いいえ)
12. 1 回終了ごとに、練習問題を入れておいてほしい。 ()	1	2	3
13. 本文中の見出しは細かく付けている方がよい。 ()	1	2	3
14. ラジオ番組の内容と特に関連のある所には、指示するマークをつけておいてほしい。 ()	1	2	3
15. ラジオ番組は女性アナウンサーとの対話形式をとっているが、相槌を打つ程度で、あまり効果的とは思えない。 ()	1	2	3
16. 女性アナウンサーが私たち聴き手を代表して、いくつか質問する方法を導入してほしい。 ()	1	2	3
17. ニュースとか、演説とか、音楽などの録音を入れて、もっと変化に富んだラジオ番組にしてほしい。 ()	1	2	3
18. 番組の最後に、講師から大事なことを復唱したりまとめてほしい。 ()	1	2	3
19. ラジオ番組とテキストの内容とは、あまりピッタリ一致せず、適当にずれていた方がよい。 ()	1	2	3
20. むずかしい漢字には仮名をふったり、むずかしい言葉には注をつけて、わかりやすく解説をしておいてほしい。 ()	1	2	3

V. 聴き取り調査

第2回スクーリング（平成3年1月19日開催）終了後、スクーリング出席者に対し所定の用紙に自由に意見等を記述してもらった。

以下は出席者（75名）のうち43人から出された意見を、テキストの内容、構成、番組との関連という3つの項目に分けて取りまとめたものである。

1. テキストの内容について

- テキストの内容をもっと簡潔にし、専門用語の補足説明をもっと多くするほうがよい。（4人）
- 図表については、特に少なかったとは思わなかったし、現状でよいと考える。（1人）
- テキストはよく編集されているが、散文的な講述が入っている。（1人）
- テキスト記載のNIES等の略語にはフリガナを打ってほしい。（1人）
- テキストの各章共に総括（要点のまとめ）が欲しかったし、各章間の連携も欲しいと感じた。（3人）
- テキストはもっと講義する人が、何故、どのようにして、そうなったか、図解なり説明をわかりやすくして欲しいと思う。（1人）
- 簡単な原論を必要に応じて解説付で補足する頁があればよいと思う。（1人）
- 日本と世界の経済と政治の歴史的事実に関する年表を付けて欲しかった。（1人）
- テキスト、単行本へと自主的に学習を延長、展開できるように引用文献、参考図書リストを充実して欲しい。（1人）

2. テキストの構成等について

- テキストの中で重要な箇所には、アンダーラインを引くとかの工夫があれば読みやすいと思う。（2人）
- 参考文献には、その文献が初歩的なものか専門的なものか等簡略な説明書きをして欲しい。（3人）
- 経済学の基礎用語については、サブノート形式等による解説は必要と思う。（1人）
- テキストにメモ部分（空白部分）を設けたら便利である。（4人）
- テキストに休憩室欄が設けられていることは、非常によいことで、各講師に休憩室欄の活用がもっとあれば、講師が身近に感じられると思う。（2人）
- テキストの中で、重要な項目は、カラー印刷で、重要な経済用語の説明は巻末に記載して欲しかった。（1人）
- 自分で考えるためのポイントの設問を置くことを望む。（1人）

3. テキストと放送番組との関連について

- ラジオ講座の場合、言葉だけの放送であり、映像がでないのでテキストには数値と共に図表、写真等を取り入れればより理解を深めることができると思う。（16人）
- 45分の放送時間に講義できる内容には制限があり、放送時間に拘らない内容の充実したテキストにしていきたい。（1人）

- テキストは幅広く書いておいて、放送ではその中の重要ポイントを講義していただくという方向を一層進められてはどうか。(1人)
- 放送とテキストが殆ど同じ内容の講義があった。放送講義では、テキストを基本にして、実例を多く取り入れるなどして内容をもっと豊富にしてもらいたい。(1人)
- テキストは放送内容と必ずしも同じ内容で記載する必要はなく、ラジオでの講義を聴く上で前提となるような内容とすればよいと思う。(1人)
- 放送はテキストを軸として具体例、時事問題等を交えてテキスト以外の講義をして欲しかった。テキストは読めば解る。(4人)
- 現在の放送時間をできれば1時間にして、初めの45分を講義、残りの15分を講座の要点を質疑応答の形でまとめたらどうかと思う。テキストの内容は従来どおりでよい。(1人)

4. その他放送に関する意見

- 放送では、アナウンサーの司会進行内容をもっと突っ込んだ方法はできないのか。(1人)
- 対話方式の放送は若干耳ざわりである。(1人)
- 現ラジオ放送局での放送の聴取は、困難な面がある。或いは、受信不可能である。(3人)